

## 1-4 中国思想中国哲学

### 研究・教育活動の概要と特色

中国思想中国哲学専攻分野における研究活動は、中国の伝統文化を政治、経済、思想、宗教、歴史、文学、科学などが複雑に交錯する有機的統合体として捉えつつ、その思想的宗教的側面を構成する諸現象の歴史的位置や普遍的意味を追究するものである。またその教育活動は、上述の研究活動に確乎とした学問的基盤を与えること、もしくは中国の伝統文化に対する知的関心ないし人文学的教養を培うことを目的として、中国古典文（いわゆる漢文）に対する読解力の養成や、中国思想に関する歴史的事実や理論的特色の修得を目指すものである。

本専攻分野の前身である中国哲学講座の初代教授武内義雄および二代教授金谷治は、文献学的思想史学的手法により、中国の戦国時代から秦漢期にいたる諸子百家の思想、とりわけ儒道両思想の展開を解明し、また本専攻分野の先代教授中嶋隆藏（2006年3月退職）は、武内・金谷の手法を洗練させつつ、その研究対象を中国中世における儒仏道三教へと広げた。現在のスタッフは、南宋後半から清代中期にいたる時期の知識人の思想を三教交渉の視点から分析する教授三浦秀一、唐代の禅思想を中心に中世の宗教思想を解明する准教授齋藤智寛（2008年4月、京都大学人文科学研究所から着任）、元朝の首都である大都に焦点を絞りその性格を多面的に追究する助教渡辺健哉（2007年4月就任）の3名であり、その研究分野は異なるものの、いずれも中国学の伝統的手法に依拠しつつ研究をおこなう点では共通の認識を持つ。

このように、本専攻分野における研究・教育活動の特色は、歴代教授に一貫する思想史学的方法と、各人によって相異なる研究関心とに示されるとおり、基礎的学力の育成・錬磨を大前提としつつも研究に従事する者の自主性を最大限に尊重する点にあり、そのような方針のもとで研鑽を積んだ多くの卒業生が、現在、斯界において幅広く活躍している。

### I 組織

#### 1 教員数（2008年4月現在）

教授：1

准教授：1

講師：0

助教：1

教授：三浦秀一

准教授：齋藤智寛

助教：渡辺健哉

## 2 在学生数（2008年4月現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
6	0	3	4	0

## 3 修了生・卒業生数（2004～2008年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (満期退学者)	博士学位 授与者
04	0	1	1	1
05	1	3	0	0
06	4	0	1	0
07	5	0	1	0
08	1	1	0	
計	11 (含予定)	5	3	1

## II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2004～2008年度）

### 1 博士学位授与

#### 1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
04	1	0	1
05	0	0	0
06	0	0	0
07	0	0	0
08			
計	1	0	1

#### 1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

齋藤智寛、2004年度、『唐宋禅宗史書の思想—祖統・伝法・聖人—』

審査委員：教授・中嶋隆蔵(主査)、教授・三浦秀一、教授・花登正宏、教授・

佐藤弘夫、助教授・佐竹保子

## 2 大学院生等による論文発表

### 2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
04	4	0	0	0	4
05	0	0	0	0	0
06	3	0	0	0	3
07	4	0	0	0	4
08	0	0	0	0	0
計	11	0	0	0	11

### 2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
04	0	1	5	0	6
05	0	1	1	0	2
06	0	4	3	0	7
07	1	3	0	0	4
08	0	1	0	0	1
計	1	10	9	0	20

### 2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

#### (1) 論文

齋藤智寛、「『宝林伝』の宗教世界—「無修」と「因果」—」、「『集刊東洋学』  
(中国文史哲研究会、以下同じ)、第92号、2004

齋藤智寛、「《伝法偈》与禅宗思想」、「『禅宗与中国仏教文化』、2004

高城 梓、「僧肇の十地思想—『注維摩詰経』を中心として—」、「『集刊東洋学』、  
第91号、2004

畠山 薫、「趙岐『孟子章句』の成立とその背景」、「『集刊東洋学』、第92号、  
2004

瀬尾邦雄、「徂徠学導入以前における庄内藩の儒学」、「『文化』(東北大学文学  
会、以下同じ)、第70巻第1・2号、2006

山崎順平、「六朝初期における観音信仰の一側面」、「『集刊東洋学』、第95号、  
2006

- 高田哲太郎、「『鬼谷子』の聖人観」、『集刊東洋学』、第96号、2006
- 高田哲太郎、「『鬼谷子』の「道術」」、『文化』、第71巻1・2号、2007
- 尾崎順一郎、「戴震の「一貫」解をめぐって」、『集刊東洋学』、第97号、2007
- 高橋睦美、「『老子指帰』の思想について」、『集刊東洋学』、第97号、2007
- 高橋睦美、「『老子指帰』の思想的位置」、『文化』第71巻3・4号、2007

## (2) 口頭発表

- 高橋睦美、「郭店楚簡の「道家」的資料についての一考察」、東北シナ学会二月例会、2004年2月16日
- 高橋睦美、「郭店楚簡道家的文献についての一考察」、東北シナ学会二月例会、2006年2月21日
- 高橋睦美、「『老子指帰』の思想史上の位置」、東北中国学会第56回大会、2007年5月27日
- 高橋睦美、「『老子指帰』の思想的特徴」、日本中国学会第59回大会、2007年10月7日
- 畠山 薫、「趙岐の思想」、東北シナ学会二月例会、2004年2月17日
- 畠山 薫、「後漢後期における名実論—趙岐『孟子章句』を中心に—」、東北中国学会第53回大会、2004年5月30日
- 高城 梓、「僧肇の修道思想」、東北シナ学会二月例会、2004年2月17日
- 今野 綾、「『史通』にみえる史学観と倫理意識」、東北シナ学会二月例会、2004年2月17日
- 李 南英、「康有為の『孔子改制考』について」、東北シナ学会二月例会、2004年2月17日
- 山崎順平、「晋・劉宋における観音信仰について」、東北シナ学会二月例会、2005年2月22日
- 山崎順平、「晋・劉宋における観音信仰について」、東北中国学会第54回大会、2005年5月29日
- 中平孝一、「『史記』成立考」、東北シナ学会二月例会、2006年2月21日
- 中平孝一、「『史記』における「発憤著書」説の再検討」、東北中国学会第55回大会、2006年5月28日
- 尾崎順一郎、「戴震思想における虚実の言説」、東北シナ学会二月例会、2006年2月21日
- 尾崎順一郎、「戴震の「一貫」解をめぐって」、東北中国学会第55回大会、2006

年 5 月 28 日

尾崎順一郎、「焦循の一貫解について」、東北中国学会第 56 回大会、2007 年 5 月 27 日

尾崎順一郎、「焦循の一貫解とその周辺」、2007 中日博士生学術研討会、2007 年 7 月 21 日

尾崎順一郎、「章学誠の「経世」観について」、東北中国学会第 57 回大会、2008 年 5 月 25 日

高田哲太郎、「『鬼谷子』の「聖人」について」、東北中国学会第 55 回大会、2006 年 5 月 27 日

高田哲太郎、「『鬼谷子』における「結」の構造」、日本中国学会第 58 回大会、2006 年 10 月 8 日

### 3 大学院生・学部生等の受賞状況

なし

### 4 日本学術振興会研究員採択状況

なし

### 5 留学・留学生受け入れ

#### 5- 1 大学院生・学部学生等の留学数

1 名（2008 年 9 月から、中国上海・復旦大学）

#### 5- 2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
04	0	1	1
05	0	1	1
06	1	1	2
07	0	0	0
08	0	0	0
計	1	3	4

## 6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
04	1	1	2
05	0	1	1
06	0	1	1
07	0	1	1
08	1	0	1
計	2	4	6

## 7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

### 7-1 専攻分野出身の研究者

齋藤智寛、京都大学人文科学研究所、2005年度

### 7-2 専攻分野出身の高度職業人

なし

## 8 客員研究員の受け入れ状況

なし

## 9 外国人研究者の受け入れ状況

なし

## 10 刊行物

『集刊東洋学』（定期刊行物：東洋史・中国文学研究室との共同による中国文史哲研究会、年2回刊行）

## 11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2004年度：

（研究集会）公共哲学京都フォーラム東北会議、2004年9月29・30日

（研究集会）「善本」と「底本」談話会（第2回）、2004年12月18日

2005 年度 :

(研究集会) 中国の思想世界、2005 年 8 月 26 日

2006 年度 :

(研究集会) 応用科挙史学研究会 (第 1 回)、2006 年 9 月 25 日

(研究集会) 応用科挙史学研究会 (第 2 回)、2006 年 12 月 11 日

(研究集会) 応用科挙史学研究会 (第 3 回)、2006 年 12 月 13 日

2007 年度 :

(国際交流準備会) 国科会中文学門訪日団 (台湾) との交流 2007 年 4 月 2 日

(国際シンポジウム) 丁茶山の時代の韓国・日本学術史、2007 年 8 月 31 日・  
9 月 1 日 (日本思想史研究室との共催)

(研究集会) 応用科挙史学研究会 (第 4 回)、2007 年 9 月 28 日

(研究集会) 応用科挙史学研究会 (第 5 回)、2007 年 12 月 25 日

2008 年度 :

(特別座談会) 清代思想史研究の現状と課題、2008 年 7 月 16 日

(ワークショップ) 応用科挙史学研究会 (第 1 回)、2008 年 8 月 27 日

## 1 2 専攻分野主催の研究会等活動状況

2004 年度 :

第 157 回中哲読書会 (2004 年 8 月 4 日)

中平孝一、『史記』における李陵の禍の影響の有無

山崎順平、晋・劉宋における観音信仰について

尾崎順一郎、戴震の天人観

2005 年度 :

第 158 回中哲読書会 (2005 年 7 月 23 日)

高橋睦美、郭店楚簡道家的文献についての一考察

中平孝一、『史記』の歴史観の整合性

尾崎順一郎、戴震思想における虚実の言説

李 勃、梁啓超における来日後の思想変化

2006 年度 :

第 159 回中哲読書会 (2006 年 10 月 4 日)

相馬慎哉、『呂氏春秋』十二紀における天人観

遠藤理律、『淮南子』の処世術について

土肥桃果、『抱朴子』内篇にみえる儒道両思想の並存について

鈴木 匠、『漢武帝内伝』における西王母像について

加藤祐一、朱熹の聖人観について

2007 年度：

第 160 回中哲読書会（2007 年 11 月 16 日）

片岡純也：五斗米道における治療行為とその宗教的意味

池田千晶：米芾における平淡と天真

渡邊秀一：蘇轍『老子解』における「道」について

加藤祐一：朱熹の孔子観—『四書集注』を中心に—

綿谷浩太郎：佐藤一斎の思想について—『伝習録欄外書』をてがかりに—

2008 年度：

第 161 回中哲読書会（2008 年 7 月 19 日）

小早川裕喜：古代中国における「勢」について—統治論を中心に—

### 1 3 組織としての研究・教育活動に関する過去 5 年間の自己点検と評価

本専攻分野における組織としての研究活動は、構成員とりわけ大学院生各自が完成させようとする研究の支援を第一の目的におこなわれる。その形態は、（1）本専攻分野単独のものと、中国の伝統文化に対する上記の捉え方から必然的に導かれるとおり、（2）文学研究科における中国学の隣接研究室である中国語学中国文学および東洋史学の二専攻分野との共同によるものに分けられる。その前者（1）に関しては、全国的もしくは国際的な学会での研究発表や学術誌への論文投稿、およびそれを前提とした、研究室主催の論文構想発表会があり、後者（2）に関しては、①学術雑誌である『集刊東洋学』の刊行、およびそれに関連する諸行事としての投稿論文の査読、雑誌の合評会など、②三専攻分野の教員等による科研費に関連しての研究会、③国内外の研究者を招いての学術講演会等がある。以下、過去 5 年間の活動を（1）（2）それぞれについて記しつつ、点検と評価をあわせておこなう。

（1）全国学会である日本中国学会での本専攻分野大学院生による発表数が 2 回、東北中国学会での発表数が 8 回、とその回数は少なくない。また、台湾で開催された 2007 中日博士生学術研究会での発表もあるのだが、やはり、国外における学会発表を含めて、いわゆる他流試合の機会を増やす必要があるだろう。論文の公刊に関しても、いわゆる「本拠地」としての『集刊東洋学』だけではなく、全国的な学会誌への投稿も増やしたい。

（2）①『集刊東洋学』2004 年 5 月発行の第 91 号から 2008 年 5 月発行の第 99 号までの 9 冊の雑誌において、中国思想分野の論説は計 12 本、そのなかで本専攻分野の大



大学院生（当時）の論文は7本を占める。院生の全体数から言えば、当該雑誌の安定した刊行に十分貢献しているとみなせよう。②三年前からの応用科挙史学研究会による研究集会、ワークショップがそれに相当する。各会は10～20名の専門家が参加し熱心な討議が交わされた。③台湾、中国の中国学研究者（劉海峰、鄧洪波氏など）、あるいは北海道大学・名古屋大学の清代学術史の専門家（水上雅晴、吉田純氏）を招いて講演会等を開催した。②の会議もそうであるが、研究者をめざす大学院生には大きな刺戟となつたはずである。

次ぎに教育活動であるが、そのなかで学部教育（中国思想専修）は、基礎的学力を身につけ、さらにそれを発展させて卒業論文の執筆へと進めるようカリキュラムを組み、また研究室独自の勉強会による補完のもと、学習効果の向上をはかっている。ただし、研究関心を持続させつつ大学院への進学を希望する学部生がそう多くないのが現状である。なお、学部2年次向けの基礎講読や概論の授業には、漢文の読解力を必須とする日本学やインド学等を専修する学生や、教員免許（国語）取得の必要から履修している教育学部等の学生も受講しており、文学部の他専修と同様、本専修もまた教育活動をとおして文系諸学部の学部生教育に貢献している。

大学院教育については、博士論文の作成を目標とした論文作成指導のために、各自の研究能力を向上させるような演習の時間を設け、またそこでの不足を補うべく研究室主催の研究会を定期的にひらき、さらには教員による個別指導をおこなっている。なお、大学院の後期3年を経てただちに博士学位請求論文を提出できる者がいないことは、本専攻分野の学問上の性格に関係する事柄でもあり、一概に否定的な評価は下せないのだが、長くない期間で、しかも多くの大学院生が学位を取得できるよう、今後、可能な限り指導に努めたい。

### Ⅲ 教員の研究活動（2004～2008年度）

#### 1 教員による論文発表等

##### 1-1 論文

中嶋隆藏「明刻六祖壇經二種について」、『禅学研究』、第82号、花園大学、pp.1-27、

2004

中嶋隆藏「嘉興大藏經刻印の初期事情」、『日本中国学会報』、第57集、日本中国学会、pp.118-132、2005

中嶋隆藏「上海博物館蔵戦国楚竹書（三）所収「互先」小考」、『集刊東洋学』、第94集、中国文史哲研究会、pp.1-20、2005

- 三浦秀一「張自烈撰『四書大全辯』刊刻事情」、『東アジア出版文化研究—こはく』（特定領域研究「東アジア出版文化の研究」）、pp.3-23、2004
- 三浦秀一「清初四書注考二題」、『東アジア出版文化の研究研究成果報告書』、本冊1（同上）、pp.313-334、2005
- 三浦秀一「明清四書注釈書関連二表」、『東アジア出版文化の研究「出版物の研究」研究成果報告書』（同上）、pp.247-269、2005
- 三浦秀一「明善・觀我・野同」、『東洋史研究』、第46巻第2号、東洋史研究会、pp.65-94、2005
- 三浦秀一「王夫之『莊子解』における「寓庸」の立場」、『中国の思想世界』、pp.305-331、中嶋先生退休記念会、イズミヤ出版、2006
- 三浦秀一「牧民と神—皆川淇園『名疇』の統治者論とその思想基盤」、『茶山学』、第11号、茶山文化財団（韓国）、pp.247-278（ハングル版）・pp.281-313（日本語版）、2007
- 三浦秀一「王門朱得之の師説理解とその莊子注」、『中国哲学』、第36号、北海道中国哲学会、2008（予定）
- 三浦秀一「人已両忘—陸西星『道德玄覽』を論じて王道『老子億』に遡る」、『集刊東洋学』、第100号、中国文史哲研究会、2008（予定）
- 齋藤智寛「《伝法偈》与禅宗思想」、『禅宗与中国仏教文化』、pp.270-288、中国社会科学出版社、2004
- 齋藤智寛「『宝林伝』の宗教世界—「無修」と「因果」—」、『集刊東洋学』第92号、中国文史哲研究会、pp.78-97、2004
- 齋藤智寛「唐宋禅宗史書思想—祖統・伝法・聖人—」、東北大学大学院文学研究科博士学位論文、2005
- 齋藤智寛「王弼の見た『老子』」、『中国の思想世界』、中嶋先生退休記念事業会、イズミヤ出版、pp.149-171、2006
- 齋藤智寛「中央研究院歴史語言研究所傅斯年図書館蔵「敦煌文献」漢文部分叙録補」、『敦煌写本研究年報』、創刊号、西陲発現中国中世写本研究班、pp.27-52、2007
- 齋藤智寛「『梵網經』と密教—S2272V「金剛界心印儀」の翻刻紹介にちなんで」、『敦煌写本研究年報』第2号、西陲発現中国中世写本研究班、pp.23-46、2008
- 齋藤智寛「伯希和 2462《玄言新記明老部》初探——《老子》的義疏學」、『敦煌学』、第27号、南華大学敦煌学研究中心、pp.381-395、2008
- 齋藤智寛「悟れなかった人々—禅律双修者の祈りと救い—」、『東方学報』京都、

- 第 82 冊、京都大学人文科学研究所、pp.69-117、2008
- 齋藤智寛「禅宗与神異、神通—《宝林伝・摩拏羅章》所見阿育王因縁解説」、『中国朝陽第二屆仏教文化論壇“中国的仏教舎利崇奉和朝陽遼代北塔”論文集』  
(仮題)、2008
- 齋藤智寛「禅宗“心地”思想的演變—兼談《壇經》和《曹溪大師伝》的心性論」、  
『楊曾文先生古希紀念論文集』(仮題)、2008
- 渡辺健哉「元の大都形成過程における至元 20 年令の意義」、『集刊東洋学』、第  
91 号、中国文史哲研究会、pp.77-96、2004
- 渡辺健哉「元の大都の形成——「中国の王権と都市」によせて」、『中国の王権  
と都市——比較史の観点から』大阪市立大学大学院 都市文化研究センター、  
pp.65-82、2007
- 渡辺健哉「科举儀礼よりみた元の大都」、『「宋代中国」の相対化 宋代史研究  
会研究報告集第 9 集』、汲古書院、2009 (予定)

## 1- 2 著書・編著

(著書)

中嶋隆藏『雲笈七籤の基礎的研究』、研文出版、2004 年 12 月

中嶋隆藏『中国の文人像』、研文出版、2005 年 3 月

(編著)

中嶋隆藏『明万曆嘉興大蔵経の出版とその影響』科研費研究成果報告書、2005 年  
3 月

三浦秀一『東アジア出版文化の研究「出版物の研究」研究成果報告書』、2005 年  
3 月

三浦秀一『中国の思想世界』、イズミヤ出版、2006 年 3 月

三浦秀一『明代荘学史研究』、科研費研究成果報告書、2006 年 3 月

## 1- 3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

中嶋隆藏「二十世紀後半日本之孔子研究」、『日本漢学研究続探・思想文化篇』、  
東亜文明研究叢書、pp.271-294、2005

三浦秀一「中嶋隆藏教授の業績と学風」、『文化』、第 69 卷第 3・4 号、東北大  
学文学会、pp.21-25、2006

齋藤智寛「形式抽象の哲学と生命体験の哲学—馮友蘭哲学とその方法論を論ず—」、  
『文化』第 68 卷第 1/2 号、同上、pp.1-20、2004

- 齋藤智寛（翻訳）「天空の文字—道教の符図文献とその分析—」、『中国宗教文献研究』、臨川書店、pp.265-291、2007
- 齋藤智寛「それぞれの浄土」、『人文』、京都大学人文科学研究所、pp.44-45、2007
- 齋藤智寛「2007年“仏教文献与文学”会議將於日本召開」、『2007 敦煌学国際ネットワーク委員会通説』、上海古籍出版社、pp.153-154、2007
- 渡辺健哉「大都研究の現状と課題」『中国——社会と文化』、第20号、中国社会科学学会、pp.520-528、2005
- 渡辺健哉「書評 新宮学著『北京遷都の研究』」、『山形大学歴史・地理・人類学論集』第7号、山形大学歴史・地理・人類学会、pp.69-78、2006
- 渡辺健哉「近年の元代科挙研究について」、『集刊東洋学』第95号、中国文史哲研究会、pp.83-93、2006
- 渡辺健哉「書評 久保田和男著『宋代開封の研究』」、『史学雑誌』、第117巻第8号、史学会、pp.96-105、2008

#### 1-4 口頭発表

- 三浦秀一「Nourishing Life and Becoming an Immortal: The Case of the Literati of the Wanli Period, Ming China」、Tohoku-Cambridge Forum、2004年6月11日（連合王国ケンブリッジ大学）
- 三浦秀一「王者は天下を以て家と為す—万曆二十九年会試の答案を読む—」、公共哲学京都フォーラム東北会議、2004年9月28日（東北大学）
- 三浦秀一「東北大学所蔵の四書注と清初の学術」、東アジア出版文化の研究「下京学会」、2004年10月31日（京都キャンパスプラザ）
- 三浦秀一「明末における桐城方氏の家学とその継承」、北海道中国哲学会7月例会、2005年7月27日（北海道大学）
- 三浦秀一「明代荘学と王夫之・方以智の荘子注」、研究集会・中国の思想世界、2005年8月26日（東北大学）
- 三浦秀一「16世紀における荘子註と陽明学との出会い」、東アジアの経典解釈における言語分析第1回国際学術シンポジウム、2006年8月（北海道大学）
- 三浦秀一「論策の魅力」、応用科挙史学研究会（第2回）、2006年12月11日（東北大学）
- 三浦秀一「四書・荘子・科挙」、東アジアの経典解釈における言語分析第2回国際学術シンポジウム、2007年7月21日（台湾・台湾大学）
- 三浦秀一「牧民と神」、国際シンポジウム「丁茶山の時代の韓国・日本学術史」、

- 2007年8月31日（東北大学）
- 三浦秀一「方氏家学と明末清初の思潮」、ワークショップ「方以智とその時代」、  
2007年9月13日（台湾・中央研究院中国文哲研究所）
- 三浦秀一「明代思想研究の愉しみ」、東北シナ学会4月例会、2008年4月日（東北大学）
- 三浦秀一「陸西星及其老子注」、全真道与老荘学国際学術研討会、2008年4月19日（中国武漢・華中師範大学）
- 三浦秀一「明代の科挙における「程論」について」、応用科挙史学研究会第1回ワークショップ、2008年8月27日（東北大学）
- 三浦秀一「明代科挙“程論”管窺」、第四届科挙制与科挙学研討会、2008年10月14日（中国天津市教育招生考試院）
- 齋藤智寛「伯希和2462《玄言新記明老部》初探—《老子》的義疏學」、2006漢学研究国際学術研討会、2006年10月26、27日（台湾雲林科技大学漢学資料整理研究所）
- 齋藤智寛「大乘菩薩戒の道—『梵網經』と東アジア仏教」、第四回 TOKYO 漢籍 SEMINAR、2008年3月8日（学術総合センター）
- 齋藤智寛「無臺明鏡照心地—《六祖壇經》的偈頌及其心性論」仏教文献与文学国際学術研討会、2008年10月24、25日（台湾高雄仏光山国際会議庁）
- 渡辺健哉「元の大都における宮殿建築の完成」、東北中国学会大会（第53回）2004年5月30日（岩手県花巻市,ホテル志度平）
- 渡辺健哉「『永楽大典』所引の『元史』について」、「善本」と「底本」談話会(第2回)、2004年12月18日（東北大学）
- 渡辺健哉「元朝における「首都圏」について——その予備的考察——」、東北史学会大会（2005年度）、2005年10月2日（福島大学）
- 渡辺健哉「元の大都の形成について」、大阪市立大学大学院文学研究科 COE/重点研究共催シンポジウム「中国の王権と都市」2005年12月17日（大阪市立大学）
- 渡辺健哉「元代科挙研究の現状と課題」、応用科挙史学研究会（第1回）2006年9月21日（東北大学）
- 渡辺健哉「元の大都における科挙儀礼について」、東北中国学会大会（第56回）、2007年5月27日（蔵王温泉）
- 渡辺健哉「高麗人の見た元の大都—高麗出身進士の史料をてがかりに」、応用科挙史学研究会（第4回）、2007年9月28日（東北大学）

渡辺健哉「元代皇帝の居所について」、宋代史談話会（第109回）、2008年4月26日（大阪市立大学）

渡辺健哉「元の大都における祭祀施設について」、東北中国学会大会（第57回）、2008年5月25日（北海道小樽市、朝里クラッセホテル）

渡辺健哉「元代の科挙における「策問」と「対策」」、応用科挙史学研究会第1回ワークショップ、2008年8月27日（東北大学）

渡辺健哉「關於元代科挙的“策問”与“対策”」、第四届科挙制与科挙学研討会、2008年10月14日（中国天津市教育招生考试院）

## 2 教員の受賞歴（2004～2008年度）

なし

## IV 教員による競争的資金獲得（2004～2008年度）

### （1）科学研究費補助金

2004年度：

三浦秀一「明代荘学史研究」（研究代表者、90万円）

三浦秀一「17世紀中国における『四書大全』検証運動の思想史的社会史的意義」（研究代表者、150万円）

三浦秀一「東アジア出版文化の研究」調整班（B）出版物の研究（研究代表者、40万円）

2005年度：

三浦秀一「明代荘学史研究」（研究代表者、120万円）

2006年度：

三浦秀一「思想史的社会史的史料としての科挙答案に関する基礎的研究」（研究代表者、470万円（直接経費））

齋藤智寛「『老子』の注釈史及び受容史を中心とした中国學術史及び思想史の研究」（研究代表者、140万円（直接経費））

2007年度：

三浦秀一「思想史的社会史的史料としての科挙答案に関する基礎的研究」（研究代表者、390万円（直接経費））

齋藤智寛「『老子』の注釈史及び受容史を中心とした中国學術史及び思想史の研究」（研究代表者、100万円（直接経費））

2008 年度

三浦秀一「思想史的社会史的史料としての科举答案に関する基礎的研究」（研究代表者、320 万円（直接経費））

齋藤智寛「『老子』の注釈史及び受容史を中心とした中国學術史及び思想史の研究」（研究代表者、100 万円（直接経費））

## （2）その他

なし

## V 教員による社会貢献（2004～2008 年度）

三浦秀一：仙台第一高等学校模擬授業、2008 年 11 月 14 日

渡辺健哉：岩手県立盛岡北高校模擬授業、2007 年 12 月 8 日

## VI 教員による学会役員等の引き受け状況（2004～2008 年度）

三浦秀一：

日本道教学会（評議員・08 年から理事）

中国文史哲研究会（常任編集顧問）

東北中国学会（幹事）

日本中国学会（評議員・将来計画検討委員会委員）

## VII 教員の教育活動（2008 年度）

### （1）学内授業担当

#### 1 大学院授業担当

三浦秀一

1 学期：中国思想中国哲学研究演習 I（明儒学案研究）

：中国思想中国哲学研究演習 III（中国思想研究上の諸問題 1）

2 学期：中国思想中国哲学特論 II（明末清初楚辞学研究）

：中国思想中国哲学研究演習 IV（中国思想研究上の諸問題 2）

齋藤智寛

1 学期：中国思想中国哲学特論 I（唐代禅思想史）

：中国思想中国哲学研究演習 III（中国思想研究上の諸問題 1）

2 学期：中国思想中国哲学研究演習 II（「復性書」の研究）

：中国思想中国哲学研究演習 IV（中国思想研究上の諸問題 2）

吉田 純（非常勤講師・名古屋大学教授）：

集中講義：中国思想中国哲学特論Ⅲ（清朝考証学の諸問題）

## 2 学部授業担当

三浦秀一

3セメ：中国思想概論（中国中世思想史概説）

4セメ：中国思想概論（明代思想史概説）

：中国思想基礎講読（中国思想文献読解・初級2）

5セメ：中国思想演習（陽明後学の思想）

6セメ：中国思想各論（明末清初の人士と楚辞）

齋藤智寛

3セメ：中国思想基礎講読（中国思想文献読解・初級1）

5セメ：中国思想各論（唐代の禅思想）

6セメ：中国思想演習（中唐の儒家思想）

吉田 純（非常勤講師・名古屋大学教授）

集中講義：中国思想各論（清朝考証学の諸問題）

## 3 共通科目・全学科目授業担当

三浦秀一：

1セメ：基礎ゼミ（故事成語と中国思想）

齋藤智寛：

1セメ：人文社会総論（担当日5月30日）

### （2）他大学への出講（2004～2008年度）

三浦秀一：

2005年度（宮城教育大学、北海道大学、京都大学）

2006年度（宮城教育大学）

2007年度（宮城教育大学）

2008年度（宮城教育大学、名古屋大学）

渡辺健哉：

2007年度（山形女子短期大学）